

ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元：大井電気株式会社

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	スマートメータの通信方式 1:N方式について	<p><意見内容></p> <p>①1:N無線方式の場合、日本国内では通信事業者がサービスする3Gサービスが広く普及しており、3G方式の採用検討することを提案致します。</p> <p>②1:N無線方式は直接のスマートメータへの利用以外にもコンセントレータとしての通信にも利用が可能であり、利用方法、適用範囲については拡大検討も必要。</p> <p>③1:N無線方式で通信事業者のサービスを利用する場合、固定通信費が発生するため、個々の導入場所に対しTCOにてコスト比較を行い、適用地域を見極めることが必要。</p> <p><理由></p> <p>① ・既存通信事業者の3Gサービスは他の方式に比べ人口カバー率が高く、現在未整備のエリアも整備が計画的に進む。総務省「携帯電話エリア整備推進検討会報告書」参考。</p> <p>・スマートメータ～基地局経由にて直接データ伝送可能であり、コンセントレータ等の設備が不要。固定通信費は発生するが、通信インフラへの投資コストは抑制できる。</p> <p>・3G方式はグローバルで普及している方式であり、今後も関連デバイスの供給と継続利用が見込まれる。</p> <p>・通信事業者の継続的・安定的な経営が見込まれ、長期利用が可能。</p> <p>・モバイルインフラの普及とともに、今後もパケット単価の低減が期待できる。</p> <p>② 適用地域として有線インフラが乏しい郊外の集落などを想定した場合、固定通信費が発生しないマルチホップやPLCにてある程度収集し1:N方式のコンセントレータにて伝送することにより必要最低限の設備投資・通信コストにてエリアをカバーすることが可能。</p> <p>③1:N無線方式で通信事業者サービスを利用する場合、導入が容易であるメリットがある</p>	<p>いただいたご意見については今後の通信方式選定時の参考にさせていただきます。通信方式の選定においては、コスト、技術の優位性、今後の普及や長期利用の見込み等の見極めが重要となるため、確立された標準規格の採用を原則として、今後、RFP と技術実証により詳細に評価する予定です。</p> <p>また、通信ネットワークの構築については、求められる機能・要件を十分に吟味した上で、通信事業者の既存インフラやサービスの利用も含め、極力低コストで実現することを目指します。</p>

		一方で通信費が固定的に発生するデメリットがある。このことから導入に当ってはTCOを算出し、コストメリットがある適用領域について見極め導入する必要がある。	
--	--	--	--